

ダム等管理フォローアップ

意見を受けての報告書修正対応表

【大滝ダム】

平成30年3月

国土交通省近畿地方整備局
紀の川ダム統合管理事務所

【大滝ダム】

1. 事業の概要

特になし

2. 洪水調節

特になし

3. 利水補給

特になし

4. 堆砂

特になし

5. 水質

項目	意見	整理状況	今後の対応方針
5.3 水質状況の 整理 本編 P5-47 概要版P.46	・貯水池の底層DOは低下していないが、深い場所で調査されていないことが原因と考えられることから、調査地点については再検討すること。	・現在の調査地点は、貯水池最深部の調査とはなっていないため、調査地点について再検討を行う。	・調査地点について見直しを行い、平成30年1月から最深部での調査を実施する。
5.3 水質状況の整理 本編 P5-112～113 概要版P.52～53	・選択取水設備を使って、水温、濁度の下流河川への影響を軽減しているが、設備の運用はどのようになっているか？コンジット等のゲートの配置、貯水池の水温、濁度も考慮に入れ、今後、出水時の早期濁水排出や10月以降の放流水温の抑制等についても検討する余地がある。	ゲート設備の運用状況 ・平常時は選択取水設備により、水温、濁度を把握して放流している。 水温・濁度はアユの生活史を考慮し、時期毎に適切な値を設定し運用している。 ・出水時は、選択取水設備からの取水が出来ない計画水位維持放流設備及びコンジットゲートからの放流が主となるため、放流水の水温、濁度は取水位置に依存する。 また出水時における選択取水設備は、コンジットゲートからの放流状況、ダム湖内の水温も考慮し、濁度が低い位置から取水して放流する運用を行っている。	・選択取水設備の運用ルールの整理を行い、今後も、ダム湖内及び下流河川での水温、濁度のモニタリングを継続する。 また、出水時の早期濁水排出や10月以降の放流水温の抑制等についても検討し改善を行う。

6. 生物

項目	意見	整理状況	今後の対応方針
6.3 生物の生息・ 生育状況の 変化の検証 本編 P.6-105～112 概要版P.73～74	・湖岸の裸地化に関しては、堆砂への影響も考えられるため土壌の侵食状況をモニタリングすること。	・現在湖岸の浸食状況のモニタリングは行っていない。	・湖岸裸地区域の浸食状況の調査方法について検討し、モニタリングを実施する。

<p>6.4 環境保全対策(土砂還元)</p> <p>本編 P.6-136~143 概要版P.88~89</p>	<ul style="list-style-type: none"> 土砂還元について、土砂採取場所の候補地は、土砂還元のために大滝ダム下流河川で求められる粒径の土砂を確保可能な箇所とすること。岩盤化した河床で土砂を留めるためにどう工夫するかという点についても検討すること。 土砂還元を行うと、土砂だけでなく、生物も一緒に移動する可能性もある。特に外来種については留意する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> モニタリング調査(河床材料の粒度試験)により大滝ダム下流で現在減少している土砂の粒径を把握しており、その結果をふまえた土砂採取場所の候補地を検討中。また、置き土した土砂が岩盤化した河床で留まる工夫についても検討を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 土砂還元において、求められる粒径の土砂に留意して土砂採取箇所を選定するとともに、効果的な方法の検討を行い、現地において試行する。 なお、外来種等にも留意して検討する。
<p>6.5 生物の生息・生育状況の変化の評価</p> <p>本編 P.6-150 概要版P.95</p>	<ul style="list-style-type: none"> ナルトサワギクについては、除去するだけではすぐに再繁茂するので、ススキやヨモギ等、類似した環境に生育する在来植物を植える等の工夫が必要になる。寒冷紗で覆うなどの対策も考えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> 本年度の植物調査においてナルトサワギクは、分布の拡大や個体数の増加が確認された。 	<ul style="list-style-type: none"> 今後も継続して調査を実施し、分布の拡大や個体数の増加が生じていないか監視し、対策を検討し実施する。

7. 水源地域動態

特になし